

## 岩崎由紀先生講演会レポート

今回のテーマが「元気・活気・勇気を与えるトーク術」ということで、実際に自分自身が子ども達に元気や活気、勇気を与えているか考えた。子ども達が不安だったり悲しい時に励ますことや慰めることはあるが、プラスで元気を与えているかは自信がなかった。

岩崎先生の話の中で、ペリフトークの話があがった。これは、選手・生徒・音下などを励ますのに、監督やコーチなど指導者が試合前(本番前)に使う「激励のショートスピーチ」のこと。「Pop」とは英語で「元気・活気・活カ」という意味。短く、分かりやすい、人をその気になせるのが特徴だという。ペリフトークにはネガティブな言葉ではなく、ポジティブな言葉がけや、可能な限り肯定的な表現をすることが大事だ」ということが分かった。

また、相手への言葉がけだけでなく態度や姿勢、視線など非言語も重要になってくると話されていた。確かに子ども達にはにか大切なことや重要なことを伝えなければいけない時は、声のトーンや表情、視線はとても大事になってくる。このような時は、ポジティブスタロークを意識して話さなければならぬと改めて実感した。

次に言葉のイメージについての話があがった。目的語を先に言うという日本語の特徴により、「ミスするよ」と言われても「ミス」の印象が強くなってしまい、「ミス」とイメージしてしまいがちだ」という。相手には、

ポジティブな言葉で「して欲しい」と伝えることが大事ということだ。「廊下を走らない」→「廊下は歩こう」というように言葉を変換して、子ども達に伝えていきたいと思う。子ども達が何かを伝えてきた時に、まず初めに話に耳を傾けて認める、褒める、「一緒に喜びたい」というのが子ども達にとって次の挑戦へのやる気や成功に繋がっていくと感じた。

保育者や大人は子ども達のやる気を捉えようというポジティブな言葉がけや態度で関わって、自信に繋がっていくことが出来る。もっと色々なことに挑戦したいという気持ちになる。これからの保育の中でポジティブな言葉がけ、態度で関わっていきたいと思う。またこのように関わることで子ども達に元気や勇気をさらに与えられるよう自分自身も勉強していきたい。

6/11

# 10. ッポト-リ

岩崎先生の貴重な講演会に参加させて頂きありがとうございました。  
10. ッポト-リの重要なポイントは 短く話す、わかりやすく、ポジティブに  
その気にさせるト-リでした。これは監督やコーチが選手などに  
試合前 喝を入れる 激励のショートスピーチということだったが  
子どもたちに話をする場面でもとても大切だと学びました。  
やはりいけないことに関して 9"X! とだけ伝えることはネガティブ  
であり、何がいけないことなのかも伝わらず、大人の顔色だけを何、  
行動していくような子どもになってしまう。そのため、なぜその行為を  
やはりいけないのか 簡潔にかつ冷静に伝えるのが良いと学びました。  
また、怒るのと叱るは違うため、私の保育を見直しお母さんと  
怒りの向きを直し、子どももあつたのだと反省した。  
今回の講演会で「ネガティブな言葉に愛する向きを  
映画のメイキングなどを通して伝えるを学んだため、  
実践していきたいです。

おもしろく、楽しい、そして聞かされた講演会ありがとうございました。

## 6/11 研修 「ペアトーク」

今回の研修を通して、「ペアトーク」と「ペアトーク」がとても印象に残りました。

「ペアトーク」は相手がやる気にならないう言葉で「ペアトーク」は相手にしてほしいことを言葉にし、多伝えることが大切だと分かりました。

また「強育十訓」で相手をただ褒めるのではなく、頑張っている過程を褒めることで、達成感~~感~~を味わうことができる。また、出来たときは一緒に沢山喜ぶことが成長につながるため、今後保育をしていく中で、「ペアトーク」を意識して声を掛けたり、子どもたちが失敗をしても、くじけそうになっても挑戦していることに意~~味~~味があるため「頑張っているね」などの声を掛けてその過程も大切にしていきたいと思いました。

岩崎先生の説明をする話し方や動きはとても引き込まれ話を聞いていて、楽しかったです。

またお聞きしたいと思いました。

貴重なお時間をありがとうございました。

## PEP TALK 元気・活気・勇気を与えるトーク術 岩崎先生講演会

私たちが普段声を掛けている言葉が伝え方によって子どもたちに大きく良い方向に影響あるのだと思います。また、私たちは保育者は生活ある上でしてはいいTTなことはもちろんあります。それを今後どう良い方向に向けて上げるかがとても重要で、駄目、してはいいTTなことではなく、どうして「欲しいのか」、どうあるべきが押し付けのよい声掛けをあることで子どもたちにはこちらの要求が伝わると思いました。例えば、「廊下を走ってはいけない」ではなく「静かに歩きましょう」と置き換えることで、どうしたら良いのかと相手にしてしまいいいことが伝わるので、言葉の伝え方を工夫あることが必要だと思いました。今回の話の中で「疑問」に思ったのは、いじめられている人は大人が出てくる前に自らいじめでも立ち向かえという話がありますが、中には立ち向かっても仲間ができたばかり上手いかわ、結局自殺という死に至ることもあります。そういった人たちはどうあるかは良かったのでしょうか。実際、私も小学校の頃にいじめを受け、相手に向かっても気持ちが届かず味方もない状態でした。提案の問題ではあります。どうしたら良かったのでしょうか。

今後保育ある上で、言葉遣いはもちろん、伝え方を工夫して良い保育に繋がっていきたいです。私自身普段から子どもたちに対してその場に相応しくない言葉も掛けてしまうこともあります。それを見つめ直し、保育に見合った言動を心掛けて、自分の仕事への向上にも繋がっていきたいです。

## 岩崎由純先生講演会に参加して

今日岩崎先生の講演会に参加し、終始楽しみなから再度学びのある機会となりました。その中でも特に印象強く残ったことが「ハンプト-7」と「ポジティブ語」、「強育十訓」です。今回、「ハンプト-7」という言葉について初めて知りました。肯定的で短く話すことが大事、大事な時は前向きな言葉を使うということを知り、特に行事で園児達が頑張る時に実践していきたいと感じました。また「ポジティブ語」というしてほしい変換も園児との関わりの中で様々な場面で活用していきたいと思います。岩崎先生のお話の中にあった、「褒める」の使い分けを聞き、過程への褒め言葉を含め、一日の中で177でも一人ひとりの園児を褒め、伸ばすことが出来ているのか改めて振り返り、もう一度丁寧に関わり、ドリームサポーターとして自分も成長していきたいと感じました。また「ポジティブ語」は園児だけでなく保護者の方への連絡時にも意識して活用したいと思いました。

『「強育十訓」では「慶育」が一番個人的に印象に残りました。成功した時の慶び、失敗した時の学び、この2つの共通点は『チャレンジした証拠』を基に、出来るようになったことは次山褒めて慶び、失敗や間違いは一緒に考え、伸ばしていく関わりをしたと感じました。』

今日の講演会を通して、再度日頃の園児に対しての言葉掛けや関わりを振り返り、これからまた学び得たことを活かしていきたいと強く思う機会となりました。ありがとうございました。

# PEP TALK 元気・活気・勇気を与えるトーク術

岩崎先生講演会

講演会ありがとうございました。ポップトークという言葉を知り、初めて聞き、映画の台詞等、身じかたな所で使用されていると知りました。子どもに文句何でも「ダメ」「無理だよ」と声掛けすると無気力な子、自分から動かない子になってしまふと改めて知ることが出来ました。ワラスの子ども達、自分が母になった際は今まで以上に声掛けを意識して接していく必要があると感じました。目的語を先に持つてくることで印象も違いますし、何をしてほしいのか明確になると知りました。今まで「お部屋の中は走りません」と声掛けしていましたが、今後は「歩いて過ごしてください」と言い直して声掛けしていきます。

「めんどくさい」→「やりがいがある」、「ミスもあるな」→「思い切りやれ」、「うそをつくな」→「本当のことを言おう」等、マイナスな言葉ではなく、プラスの言葉に言い変えると印象が全く違うと感じました。マイナスな言葉を掛けるとその通りになってしまふ、プラスの言葉掛けは良い方向へつなげる、とても影響力があると感じました。学生時代、優勝がかかっている大事な場面では「思いきりやれ、決めてこい」と毎度言われていたことを思い出しました。その言葉通り、市大会は負けなしで良い結果を残すことが出来、言葉の力、影響力が大きいと改めて感じました。行事や参観日の前日は、子ども達のが力が出し切れるようプラスの言葉掛けをしていきます。

「夢中力」があるのとはいいでは、大きく差があると知りました。何かに熱中して取り組むのは良いことで、苦手なことにも挑戦出来るし、保育者、親が子ども達のドリームサポーターになり、伸ばしていくことが大切と改めて感じました。今回の話を聞き、保育や、プライベートでも活かしていきます。

## 岩崎由純先生の講演会を聞いて

日々保育する中で子どもたちとのコミュニケーションは必要不可欠なことであります。今までペップトークについて無知でしたが、今回岩崎先生のお話を聞き、興味が湧きました。多くのスライドを用い、楽しい語り口調にあっという間に90分が過ぎてしまいました。ポジティブな言葉がけを！等はよく聞く言葉ではありますが、ずっと腑に落ちて早速取り組んでみたいと思える内容でした。

その中でも特に印象に残っている言葉は『“ありがとう”は最高のペップトークである』ということです。どんなに小さなことでも感謝の気持ちを持ち、ありがとうが素直に言える子どもに育ててほしいと思いながら日々保育に努めています。「ありがとう」は自分自身が好きな言葉でもあり、保育現場だけではなく常日頃感謝の気持ちを忘れず過ごせるよう心がけています。

ポジティブな言葉を多く用いて会話するペップトークは難しそうだと思っていましたが、この言葉を聞いて「私も既にペップトークが少しばかりではあるが使えている！」と嬉しい感情になりました。

言葉には強い力があると思います。近年、「ネット上での誹謗中傷、言葉の暴力」が問題視されています。故意ではなくても不適切な言葉で、傷つけてしまう、傷ついてしまうことがあります。保育者から子どもへの言葉も同様に、自分たちが想像する以上に重みを持ち、ときに言葉の暴力になる場合もあると思います。幼児期の子どもたちは良い言葉も、悪い言葉も全て吸収してしまいます。善悪の区別がつきません。子どもたちの耳に入る言葉が悪いネガティブな言葉より、ポジティブでプラスな言葉が多くあってほしいと望みます。ペップトークは、子ども(相手)にとって心強く、力になるだけでなく、そのような言葉を発している自分にとっても、物事を前向きに捉えられるような明るい気持ちにさせてくれる手段でもあると実感しました。今後の保育の中でペップトークを実践し、子どもたちの心に響いてくれれば、多少なりとも明るい未来に変わるのでは、と思いました。

幼い頃の私の夢は「白雪姫になること」でした。その当時、担任だった先生はこんな馬鹿馬鹿しい私の夢に対し、「それは素敵だね！」と笑顔で返してくれました。その時の優しい笑顔が忘れられず、「私も誰かの夢を応援できるような素敵な人になりたい」と思い、保育者を目指しました。今回の講演会の中で『ドリームサポーター』という言葉が出てきました。私自身、夢をサポートしてもらった一人です。子どもたちの気持ちに寄り添い、否定・評価・判断するのではなく、一人ひとりを尊敬、尊重し、全力で子どもたちの夢を応援できるようなドリームサポーターになりたいと、改めて感じました。

「毎日ポジティブに過ごしているか」と、問われると「はい!」とは即答できない自分があります。時には何もかも嫌になってしまうこともありますし、イライラしてしまうこともあります。また私は昔から物凄く緊張しいで、人前で話をしたり、何かを発表する場面に直面するとマイナスなことばかり考えてしまう性格です。しかし、今回の話の中にあつた『337拍子のリズムで自分自身に言葉をかける』ことで自分を鼓舞し、明日からの保育に臨みたいと思います。

今回の講演会は自分に響く言葉が多く、貴重な時間を過ごすことができました。ポジティブワードがたくさん飛び交うような保育現場を目指し、これからも頑張っていきたいと思ひます。ありがとうございます。